

追悼のことば

七十八年前の今日、ここ岡山市の市街地を中心に無数の焼夷弾が投下され、千七百人以上の方が犠牲となりました。今もなお、人々の心身には深い傷が残り続けています。戦争によって傷つき、苦しみ、尊い命を奪われた方々とその遺族の方々に深く哀悼の意を捧げます。

空襲は真夜中から明け方まで続き、大きな被害をもたらしました。焦土と化した岡山の街ですが、驚くことに一年後には家が建ち始め、数年後には家や店が建ち並ぶほどに復興が進んだそうです。戦争の恐ろしさや悲惨さだけでなく、私たちは岡山をここまで住みやすい街に復興させた方々の苦労や復興への想いも忘れてはなりません。

私たちが所属する社会部では、昨年シベリア抑留について学習し、抑留された地での過酷な生活を知り、帰国を願う人々の想いに触れました。戦争による悲しみで涙を流す人がこれ以上増えることのないよう、私たちは平和の大切さ尊さを伝える活動を続けています。私たちが大切にしていること、それは「知って、見て、感じて、考える」です。この言葉は私たちの世代が思いやりの心で溢れる未来を作っていく上で大切なことだと思います。過去や様々な立場の人を知り、実際に目で見て感じ、平和について考える。これが私たちができる平和への第一歩だと考えます。

現在、ウクライナでは多くの人々が傷つき、家や故郷を離れなければならない状況が続いています。これはウクライナだけの問題ではなく、世界中の人々の生活にも影響を与えています。この状況に対して一人一人ができることは限られるかもしれませんが、戦争や平和について正しく知り、後世に伝えることが私たち若い世代の使命です。

私たちは戦争を経験された方々の気持ちの全てを理解することは難しいかもしれませんが、しかしそれを記録し、後世に伝えていくことはできます。私たちも岡山市の戦災について知ろうとする姿勢を強く持ち、次世代に平和への想いを繋いでいきます。結びに、私たち若い世代が平和で誰もが住みよい岡山市の未来を築いていくことを誓います。この誓いととも心から追悼の意を表し、世界の平和と発展をお祈りします。

令和五年 六月二十九日

青少年代表 明誠学院高等学校 草野稀音
佐藤初音